



# 飲酒習慣別、肥満・腹部肥満の組合せと高尿酸血症の関連 (ZRF study 第14報)



白澤 貴子<sup>1</sup>、落合 裕隆<sup>1</sup>、吉本 隆彦<sup>1</sup>、長濱 さつ絵<sup>2,3</sup>、  
小林 真理子<sup>2</sup>、箕浦 明<sup>1</sup>、星野 祐美<sup>1</sup>、小風 暁<sup>1</sup>

<sup>1</sup>昭和大学医学部衛生学公衆衛生学講座、

<sup>2</sup>一般財団法人全日本労働福祉協会、<sup>3</sup>東邦大学医学部社会医学講座衛生学分野

## 【目的】

肥満・腹部肥満の組合せと高尿酸血症との関連について、飲酒習慣の有無別に、特に「Normal-Weight Central Obesity(普通体重・腹部肥満)」に着目して検討した。

## 【方法】

### <対象者>

平成25年度に一般財団法人全日本労働福祉協会が実施した健康診断の受診者のうち、「40～64歳」及び「Body mass index (BMI)が18.5以上」の者を対象とした。

### <情報収集>

- 健康診断時に身長・体重・腹囲測定  
⇒BMIを算出し、普通体重・肥満を定義  
⇒普通体重:  $18.5 \leq \text{BMI} < 25$ 、肥満:  $25 \leq \text{BMI}$   
⇒腹囲身長比(WHtR)を算出し非腹部肥満・腹部肥満を定義  
⇒非腹部肥満:  $\text{WHtR} < 0.5$ 、腹部肥満:  $0.5 \leq \text{WHtR}$
- 健康診断時に血液検査  
⇒尿酸値より、高尿酸血症を定義  
⇒高尿酸血症:  $7.0 \text{mg/dL} < \text{尿酸値}$
- 健康診断時に自記式問診票  
⇒問診票の飲酒の項目より、飲酒習慣の有無を定義  
飲酒習慣有(飲酒群):「毎日・時々飲む」と回答  
飲酒習慣無(非飲酒群):「ほとんど飲まない(飲めない)」と回答

### <統計解析>

肥満・腹部肥満の組合せから、「普通体重・非腹部肥満」・「普通体重・腹部肥満」・「肥満・非腹部肥満」・「肥満・腹部肥満」の4群に分類した。

男女別飲酒習慣の有無別に4群における高尿酸血症の有病率を算出した。

本研究は、「昭和大学医学部 人を対象とする研究等に関する倫理委員会」・「一般財団法人全日本労働福祉協会 学術研究倫理審査委員会」から承認を得て実施された。

## 【結果】

対象者のうち、同意が得られた人数:267,615人  
⇒267,615人うち、「データに不備のある者」を除外  
⇒解析対象者:96,863人(男性69,241人、女性27,622人)

「普通体重・腹部肥満」は、男性15.6%、女性30.3%であった。

「普通体重・非腹部肥満」・「普通体重・腹部肥満」・「肥満・非腹部肥満」・「肥満・腹部肥満」における高尿酸血症の有病率は、男性15.6%・21.5%・21.5%・30.2%、女性1.6%・2.3%・6.5%・6.3%であった。

飲酒習慣の有無別にみると、飲酒群では、男性17.8%・24.2%・23.3%・32.0%、女性2.7%・3.5%・8.3%・8.4%であり、非飲酒群では、男性8.8%・13.8%・16.6%・26.0%、女性0.5%・1.3%・4.3%・4.7%であった(図)。

## 【結論】

飲酒習慣の有無にかかわらず、普通体重であっても腹部肥満の有無によって、高尿酸血症の有病率に差異が認められた。肥満・腹部肥満の組合せによる「普通体重・腹部肥満」に着目することは、今後の高尿酸血症の予防に寄与する可能性が示唆された。

## 【謝辞】

本研究にご協力いただきました関係者各位に感謝申し上げます。本研究は、平成29-31年度文部科学省科学研究費助成事業基盤研究(C)(課題番号17K09130)の助成を受けて行われました。

「演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません」

